

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム さくら花泉(B棟ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0390900090号		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら 花泉 B棟		
所在地	岩手県一関市花泉町涌津字二ノ町43-1		
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 11 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 9 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900090&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成23年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念として掲げている「その人らしく」を大切に、利用者様一人ひとりの希望を取り入れながら、家庭的な居心地の良い場所作りに心がけ、安心して生活して頂けるよう支援している。
 ・敷地内に庭と畑があり、四季折々の野菜や花、木などの種を蒔き、育て、収穫する喜びと季節感を肌で感じていただけるよう努めている。
 ・行事等を通し、姉妹施設とも交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、有限会社さくらが運営する事業所の一つである。近隣に民家は少ないものの、駅や市役所支所、特別養護老人ホーム、中学校、スーパーやコンビニ、飲食店、民間事業所などがあり、散歩を通して、往来の方との交流が深まりつつある。外に出ては、庭や野菜づくりなどで季節感を肌で感じ、いつも職員の暖かい視線や声かけを実感しながらゆったり過ごされている。職員が「全てを準備してあげる」ケアではなく利用者自ら「選択」をして食べたり、やってもらう」というケアを通して、理念である「その人らしく」を実現すべく、取り組んでいる。実践として昨年から「喫茶の日(飲み物選択)」を設定、本年は「副食の選択」の実施を計画するなど、意欲的に2年目を迎えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム さくら花泉(Ｂ棟ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念に基づき、全スタッフが、理念を共有してサービスを提供している。	開設時に作りあげた理念について、職員ミーティング時に話題とし、職員がノートに理念を貼付する等し、その共有・実践に努めている。今後は、利用者の身体・生活状況の変化等を見ながら、再検討していきたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。今年度より、地元中学生の体験実習を受け入れ、6名の生徒が参加し交流を図っている。	今年度から中学生の職場体験を受け入れている。日常的には、散歩や買い物を通してご近所の方々と、気軽に挨拶を交わし合える関係になってきている。今後は、地域交流室を活用した近隣との交流に努めたいとしている。	推進会議の意見等を得ながら、近隣の方々との交流(事業所への立ち寄り等)について、検討が進められ地域との繋がりが深まっていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、地域交流室の提供を呼びかけている。又、地震の際に一時的に地域の避難場所として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議で出された意見や行事内容等を参考に生活の質の向上を目指しケアにあたっている。	事業所の運営状況や利用者の生活状況等の報告に関連して、委員から活発な意見等が出されている。職員の名札着用や写真掲示の提案があり実現させた。今回の地震への対応状況等の振り返りもなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、満床となっている。入所状況の報告、又、被災者の受け入れ等の確認を行い、指示を仰ぐなど協力関係を築いている。	推進会議での意見・情報交換以外に、運営基準の解釈等について、面談・電話などで相談している。生保担当職員が来訪するほか、介護認定申請時に、利用者と市役所を訪問するなど、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中は開放している。利用者様との信頼関係のもと、常時所在確認、目配りを行い拘束しないケアに心がけている。	身体拘束排除のみならず、虐待防止等について、法人全体のほか所内において研修を実施し全職員が意識の共有を図っている。一人で出かけた利用者には本人には気付かれないようさりげなく見守り安全確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その資料や内容を報告する場を設けると共に回覧で周知し、全スタッフで情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修会などに参加して、学習しながら理解を深めて行きたいと考えている。現在1名の方が権利擁護を継続利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書や重要事項説明書の内容を説明し、理解していただいて契約している。入所後もいつでも疑問や質問に答えることを併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情や意見を幅広く聴けるようにしている。又、運営推進会議への参加を呼びかけ、意見をいただく場を設けている。	電話や面会時、行事の参加の際など、いつでも誰にでも意見等を出し易い環境・雰囲気作りに努めている。「家族負担で、洗濯乾燥機を設置したい」という意見があり事業所のサービスとして検討し、設置・反映をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回全体会議を開催し、経営者と話し合いの場を設けている。又、月に一回棟ミーティングを行い意見交換を行っている。今年度意見を取り入れていただき、畑を作り、利用者様の生きがいを支援している。	毎日の申し送りや職員ミーティング以外にも、その都度、職員が意見を出し合い、ざっくばらんに話し合っている。「ミーティングのあり方」「畑への近道としてフェンスにドアの設置」の意見について、即その反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務作成時には、希望休を聞き入れ作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を始め、ホーム内でのミーティングや全体会議内で勉強会を開き、個人及び全体のスキルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会への参加や情報交換ができるようにしている。昨年度は同時期に開設した施設との交換研修も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に居宅ケアマネと協力し、スムーズな連携が図れるよう調整。又、自宅に赴き本人より、不安や希望の聞き取りを行い、安心した状態で入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に居宅ケアマネと協力し、スムーズな連携が図れるよう調整。又、自宅に赴き本人より、不安や希望の聞き取りを行い、安心した状態で入所できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含め、居宅ケアマネ・家族・本人と話し合いを行い、その時のニーズに即したサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で家事や畑仕事などスタッフと一緒にいきながら、感謝の意を伝えながら、次につながるような支援を行い、IADLの向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にいきながら、共に行事に参加して頂くことができるよう毎月の便りや案内の通知を出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、ふるさと訪問や馴染みの地域への外出などを行っている。	ふるさと訪問で自宅の裏山に山菜とりに行ったり、自宅の廻りの田んぼを見に訪れたりしている。また同じ団地に住んでいた知人が訪問したりとこれまでの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合ったり、助け合っている姿が見られ、利用者間でのつながりが感じられるようになり、良い関係性が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会いを大切にし、つながりのある関係づくりを行って行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の他、定期的に聞き取りを行い、現在の満足度や希望、意向の把握に努め、毎月行うミーティングの中で話し合いを行いプランに反映させている。	センター方式を一部活用しながら、日常会話等から思いや意向の把握に努めている。日常会話以外にも、利用者の一着本音が出やすい入浴時に思いや意向を積極的に聞きとり、聞き取った意向等は職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネから頂いた情報をベースに、日常会話の中で知りえた情報、面会時に知りえた情報等を書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から、些細な変化を見逃すことなく記録し、スタッフ間で情報を共有し統一した支援が継続できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時に、担当とケアマネは時期をずらして聞き取りを行い、ご本人様の意向を見極めながら、棟内カンファレンスを行い計画を立てている。	入居時に暫定プランを作成し、その後毎日の実施状況・モニタリングの結果をもとにカンファレンスを家族・職員全体で行い正式プランを作成している。プランは3ヶ月毎に見直し現状に即した内容となるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個々人の記録に記入し、1日を通しての状態を把握できるようにし、モニタリングやプランの見直しに活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭の事情を考慮しながら、一人ひとりに合わせたサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学校の職場体験の受け入れをしたり、ホーム内行事では地域のボランティアにお願いし、踊りや歌を披露していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけである医師に、継続受診するなど、スタッフの通院介助により、継続して適切な治療が受けられるよう努めている。	利用者家族の希望するかかりつけ医となっている。通院については、生活・健康状態を良く知る職員が同行、緊急時等には、家族等も同行している。医師からの指示事項については、家族等に電話等で小まめに報告を行ない共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていないが、必要時には、訪問看護との連絡調整を図って行きたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況経過を報告。入院中も定期的に面会し病棟看護師より状況を聞いたり、家族に状況を確認している。 通院時にはスタッフが付き添い、病院関係者との関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りを行うことを前提に協議している。	現時点では重度化し医療的処置が必要となった場合に対応できないことを入居時に家族に説明し了解を得ているが終末期については、看取りまで対応したいと考えている。今後ともキーパーソンとなる医師の確保について検討を重ねながらその実現に努めたいとしている。	今後の看取りを含む終末期等に対応するため、研修などを通して知識・技術の習得をしながら、終末期等に向けた職員の意識の維持・向上を継続していくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置しており、急変時等のマニュアルを作成。常に目を通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の想定訓練を行い、災害時の避難誘導を利用者とスタッフ相互で身につける事が出来るようにしている。	夜間の火災を想定した避難訓練と消火器の使用訓練を行っているが今回の大地震の経験をもとにした訓練を考えていきたいとしている。地域住民が参加しAEDの講習会を行ったが地域との具体的連携は、これからの課題としている。	推進会議の意見等を得ながら、いざというときに備えて、近隣の方々をお願いする具体的役割(避難者の見守り等)を定めながら、その協力依頼をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、言葉遣いや声の高さに注意して対応している。	経歴や生活歴により言葉掛け等は利用者ごとに違いがあるとの認識のもとその人にとって尊厳が保たれる言葉かけを行っている。畑の作り方や行事での挨拶など、先人としての知識や技術、経験を発揮してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や洗濯、散歩など希望や訴えのある時には一緒に行く。月2回喫茶の日を設け、おやつや飲み物は、数種類の中から、好みものを選択していただいている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別介護に心がけ、一人ひとりのペースで生活していただけるよう、食事等時間に余裕を持たせるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には、理美容室に出かけたり、その人らしく居られるよう支援している。毎日の衣類の選択に関しては自主性を重んじている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事食を取り入れている。又、禁止食材や好き嫌いのある方には、別メニューを提供し、食べる楽しみを感じていただいている。	献立は基本的には法人内の栄養士が立ててはいるが畑から採れた野菜や近所のスーパーでの安い食材を買った時などには随時、献立の変更をし利用者が食べたい内容に応じている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士にバランスよく立てて頂き、摂取量や水分量は記録に残し、脱水防止に努めている。栄養指導時、カルシウム不足の指摘をうけ、経営者との話し合いで、乳製品の定期購入が可能となり実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、自室の洗面台や共有の洗面台にて、各々の能力に応じ、声かけ、見守り、介助にて口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄パターンを把握し、声かけ事前誘導する事でトイレでの排泄と自立への取り組みを行っている。	排泄チェック表で利用者に合わせた排泄時間に誘導を行う以外に、職員は常に利用者の状態に目配りを行い必要時にはさり気なくトイレに誘導しトイレでの排泄回数を増やし、自信に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表により、各々の排便を確認している。又、便秘予防に乳製品を提供したり、散歩や入浴時の腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望を聞いて対応しているが、血圧等体調によって応じられない時には清拭するなど、体調に応じて支援している。	基本は1日おき、少なくとも3日に1回を目安とし午前午後の好きな時間帯に対応している。一番風呂や職員との会話、季節には菖蒲湯・ゆず湯なども取り入れ、楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息を取りたい方には休んでいたでいる。一人ひとりの状況に応じて、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイリングして、いつでも確認できるようにしている。又、変更時には薬箱に記載し、情報を共有しながら、適切な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前から行っていた楽しみや生きがいは継続して行っていたで、張りのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の催し物等、積極的に外出する機会を設けている。又、本人の希望や要望を把握し対応している。	普段は周辺の散歩、スーパーやコンビニの買い物のほか、季節毎にドライブ方々、蓮やつつじの花見に出かけて気分転換をしている。今後は、地域の夏祭り等に家族等と利用者が一緒に参加して絆を深めることができるよう、家族への声がけをしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向も加味しながら、現金がないと不安な方、管理が可能な方には所持していただき、希望時には買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にある電話、棟にある子機を使用し何時でも電話できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節を感じられるような花や絵、行事で撮った写真や活動をカレンダーにして展示している。又、玄関には手すりや備え付けの椅子を置き、安心して脱ぎ履きできるようにしている。	できるだけ家庭にいると感じられるように配置等に留意している。共有スペースのリビングはゆったりとした空間で窓からの採光が柔らかい明るさとなっている。地域交流室がリビングに併設されており一人になりたい時に利用できるなどの工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流室にテーブルと椅子を置き、外が眺められるようになっている。又、ホーム庭の花壇の周りに椅子を置き、利用者様同士で過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたテーブルや椅子を持ち込まれたり、家族等の写真や色紙を飾り、安心した生活が継続できるよう支援している。	居室にはベッドとクローゼットが備え付けられている。家族の位牌や写真等が飾られているほかに利用者が作った作品や利用者がモデルとなったカレンダーが飾られ自分の居室という思いが表れるような環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に洗面台を設置し、食後の口腔ケア、洗顔、手洗いが容易にでき、小物の洗濯等自分でできるようにしている。		